

「痛みと漢方」投稿規定・執筆要領のご案内

I. 投稿規定

1) 「日本疼痛漢方研究会」の機関誌である「痛みと漢方」は、漢方医学の分野において痛みに関連する研究成果の発表を広くとりあげ、他誌に未発表かつ投稿中でない論文を掲載いたします。なお、投稿論文は日本語または英語による論文とします。

2) 投稿論文は下記の種別より選択され、最終的には編集委員会にて決定します。

*総説 (review): 疼痛漢方医学に関する研究を総括した論文

*原著 (original article): 疼痛漢方医学に関する独創性・新規性の高い知見を有する論文

*症例報告 (case report): 臨床に有用・貴重と考えられる症例の報告

*臨床経験 (clinical experience): 上記に準じた研究や症例に関する報告

*短報 (short communication): 文字数の少ない、早急に報告する必要がある独創性を有する論文

*レター (letter): 編集や掲載論文に関する意見

その他に提案・試案などに関する論文も受け付けます。

3) 原稿の採否は、査読のうえ掲載欄 (総説・原著・症例報告・臨床経験・短報・レターなど) 等全て、編集委員会にて決定し、掲載は受理の順を原則とします。

4) 本誌に掲載された論文の著作権は「日本疼痛漢方研究会」に帰属します。

5) 二重投稿は著作権を侵害するものであり、本研究会としてもこれを認めません。

査読の時点で違反が認められた場合には本誌には採用しません。また、既に掲載された論文が二重投稿であることが判明した場合、その旨の警告を本誌およびホームページに掲載し公開します。論文投稿にあたり、二重投稿とならないように十分に留意してください。

(二重投稿の定義)

*印刷物、電子出版物を問わず既に論文として発表されたか、あるいは投稿中の論文と内容が同一とみなされる場合

*本誌に投稿された論文の本文および図表等の一部が既に発表されているにもかかわらず

ず、既報の論文を引用していない場合

*ただし、学会発表の抄録あるいはポスターとして発表されたものは、二重投稿とはみなされません(本文中にその旨を記すこと。例: 本論文の要旨は第〇回〇〇学会にて発表した。)

*投稿する論文が二重投稿とみなされる恐れがある場合には、前論文との差異を明記するとともに、コピーを添付して編集委員会に問い合わせてください

(例: 参考文献: 中山健夫, 津谷喜一郎 編: 臨床研究と疫学研究のための国際ルール集, 9-11, ライフサイエンス出版, 東京, 2008)

II. 投稿者の資格

投稿論文の筆頭著者および責任著者は「日本疼痛漢方研究会」会員に限ります。ただし、依頼総説においてはこの限りではありません(依頼総説は原則として編集委員会が依頼します)。

III. 医学研究, 個人情報保護, 利益相反 (COI) に関する指針の遵守

1) 医学研究に関する指針

人を対象とした論文は、「ヘルシンキ宣言 (1964年6月採択, 2013年10月修正)」および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示, 以下「生命科学・医学系指針」)を遵守したものとしてください。また、動物実験は「動物実験に関する倫理規定」に基づいて行われたものでなければなりません。「生命科学・医学系指針」により該当する審査委員会の承認が必要とされる研究については、当該施設の審査委員会で承認済みであることを論文(方法)に記載してください。

2) 個人情報保護に関する指針

医学論文あるいは学会発表される症例報告では、患者の個人情報保護に配慮し、患者が特定されないよう留意してください。したがって「日本疼痛漢方研究会」では、症例報

告を含む医学論文・学術発表において、患者の個人情報保護に関する指針を以下のように定めます。

- ①患者個人を特定できる氏名、住所、診療番号、イニシャルなどを記載しないでください。
- ②患者の人種、国籍、出身地、本籍地、住所、職歴、既往歴、家族歴、宗教歴、生活習慣、嗜好などは、目的とする報告内容との関連性が低い場合には記載しないでください。但し、疾患の発生と地域性に密接な関連性がある場合は例外といたします。
- ③年齢や経過の日時は臨床経過を知る上で重要です。症例報告の契機となった病態が臨床的に明らかになった時点、もしくは症例報告を行う医療機関をその病態のために受診した時点を基準年（X年）として、その時点の年齢を患者の年齢とすることを原則とします。
- ④また、日付は第3病日、10日前、X-3年、1年後という記述方法か、あるいは患者個人を特定できないかたちでの年月までの記載は許容範囲です。
- ⑤患者に関する情報と受診した診療科名との関連から患者が特定され得る場合、診療科名は記載しないか、大まかな記述法とします（たとえば、第一内科のかわりに内科）。
- ⑥現病歴などで過去に受診した施設名ならびに所在地を記載しないでください。ただし、搬送元の記載が治療経過に不可欠の場合は所在地のみを記載します。
- ⑦顔写真を提示する際には目を隠してください。眼疾患の場合は顔全体が分からないよう眼球のみの拡大写真とし、個人が特定できないようにご配慮ください。
- ⑧症例を特定できる生検、剖検、画像情報に含まれる氏名・番号などは削除してください。
- ⑨以上の配慮をしても個人が特定される可能性のある場合は、発表に関する同意を患者（または遺族か法定代理人、小児では保護者）から得るか、所属施設の倫理委員会の承認を得てください。投稿に際しては、その文書を添付し、発表に際しては文末にその旨を記載してください。

個人情報保護の点で懸念のある論文の公開については「患者同意書」を必要とする場合があります。「患者同意書」が必要とされる場合は、「患者同意書」を患者から取得し、原本は手元で保管して、コピーを編集委員会へ提出してください。

3) 利益相反（COI）に関する指針

掲載論文の公正性・信頼性を担保するため、責任著者は投稿に際し別紙「筆頭著者の利益相反自己申告書」に利益相反の該当状況、また、該当のある場合はその企業名・団体名等をご記入の上、論文投稿の際にご提出ください。

なお、利益相反の有無が論文の採否に影響することはありませんが、掲載論文の末尾に利益相反関係を記載いたします。

・利益相反状態にある場合の記載例

本論文に関連し、開示すべき利益相反（COI）状態にある企業・組織や団体は以下の通りである

漢方一郎：講演料等（株式会社〇〇）、東洋二郎：原稿料等（△△株式会社）

・利益相反状態にない場合の記載例

利益相反（COI）に関して開示すべきものなし。

IV. 執筆要領

- 1) 原稿は、ワープロを用い、A4用紙1頁40字×30行とし、図表を含めて2部（オリジナル+コピー1部）とディスクなどを同封し、原稿作成に使用した機種（Windows, Macintosh）およびソフトウェア（MS Word など）を明示してお送りください。
- 2) E-mailで原稿を送信される場合は、Mail Address：pain-kampo@lifemedicom.co.jp宛に、「投稿原稿」であることを件名に明記した上でご送信ください。
- 3) 原稿は、横書き、新かな遣い、口語体とし、専門用語以外は常用漢字をお使いください。なお、文中の外国語は、普通名詞については、文頭は大文字、文中は小文字、固有名詞については大文字にし、単位および単位記号は国際単位系を用いてください。
- 4) 表題、著者名（和文・英文ともに*1, *2, …を付し）、機関名、所属、住所および主著

者(校正者)の連絡先(住所・電話番号)を和文・英文とも必ず記載してください。

- 5) 日本語で要旨(400字以内)、索引用語(3~5語以内)を記し、英文要旨(Abstract)(200語以内)およびKey words(3~5words以内)を記載してください。
- 6) 短報およびレター以外の論文:要旨(400字以内)、索引用語、本文、引用文献、英文要旨(200語以内)、Key words、図表(写真を含む)の順に記述して、全ての頁に通し番号をつけてください。
- 7) 原著. 総説は概ね、「はじめに」、「対象(症例)と方法(治療経過)」、「結果」、「考察」、「まとめ」の順に記載し、文献は一括して最後に引用順に記載してください。
- 8) 症例報告は「はじめに」、「症例」、「考察」、「まとめ」、「謝辞」の順に記載し、文献は一括して最後に引用順に記載してください。書き方は次の形式に準じてください。

はじめに

症 例

1. 患者の年齢、性別、身長、体重
2. 主訴
3. 既往歴
 - 1) 症状
 - 2) 西洋医学的診断・治療
 - 3) 東洋医学的診断・治療
4. 現症
 - 1) 症状
 - 2) 西洋医学的所見
 - 3) 東洋医学的所見
5. 治療
 - 1) 漢方薬等
 - 2) 経過
 - 3) 結果

考 察

1. 漢方薬を選択した理由
2. 効果があった理由
3. 効果がなかった理由

まとめ

謝辞

文献

- 9) 短報:構成は原著・総説または症例報告と同様としますが、図表(写真を含む)は2点以内、本文は全文字数6,000字以内としてください。

- 10) レター:全文字数800字以内とし、要旨、索引用語および図表は含まないものとします。

- 11) 学術用語につきましては、日本医学会編 医学用語辞典(日本医学会医学用語管理委員会編、南山堂、2007年4月発刊)、PubMedのMeSH(Medical Subject Headings)を参考にしてください。あるいは日本歯科医学会編学術用語集(日本歯科医学会編、医歯薬出版、2008年11月発刊)に準じてください。身体各部をあらわす用語につきましては日本解剖学用語に準じてください。口腔外科の専門用語につきましては口腔顎顔面外科学専門用語集(医歯薬出版、2011年9月発刊)に準じてください。

- 12) 専門的な略語を使用する際は、初出時に正式名を書き、続いて略語を括弧内に「正式名(略語)」のように示して、以後は略語を使用してください。図表においても略語には説明を付けてください。

歯科の略語につきましては、歯科以外の読者にもわかるようにご使用ください。

- 13) 薬品名は日本での慣用に従ったカタカナ表記とします。薬品名は原則として一般名で表記してください。商品名の記述を要する場合には一般名の後に「一般名(商品名®)」のように記載してください。日本語として慣用化していないものは原語で表記します。商品名は、[例]に準じてください(例:葛根湯(TJ-1)7.5g分3/日)。

なお、生薬名は日本薬局方の「医薬品各条生薬等」にある各生薬の英語表記を用いてください。日本薬局方は以下のサイトからPDFファイルをダウンロードできます。

<http://jpdb.nihs.go.jp/jp16/>

また、東洋医学的用語は日本東洋医学会発行のIntroduction to Kampoを参考にしてください。用語の適切な英訳を見いだせない場合にはWHO international standard terminologies on traditional medicine in the western pacific region(2007)を参考にしてください。

- 14) 図、表、写真には、タイトルと説明文を付け、本文の原稿とは別にして文中に挿入箇所を赤字で明記してください。また、図はトレースしたものか鮮明なもので、その

まま印刷に耐えられるものとしてください。写真は白黒です。カラー写真の掲載を希望される場合は、実費を負担していただきます。

- 15) 他の文献からの文章、図、表などの引用は、あらかじめ著作権者の了解を得てください。また、その際には、出典（著者名、書名〈雑誌名〉、発行年、頁、発行所）を引用箇所に明示してください。

引用文献はバンクーバースタイルに準じて必要最小限とし、本文中の引用箇所の右肩に番号を小文字で書き、本文の最後に一括して引用番号順に記載してください。書き方は次の形式に準じてください。いずれの場合も著者が4名以上の場合は3名まで記載し、残りは和文の場合は「他」英文の場合は「et al.」と記載してください。

【雑誌】

著者名：標題、誌名、巻数：始頁-終頁、発行年
雑誌の省略名は、医学中央雑誌または Index Medicus style に準拠してください。

・和文文献の場合

例1) 草木太郎：難治性活動性肝炎の柴胡剤と桂枝茯苓丸の併用療法。日東医誌 31：19-27, 1980

例2) 鈴木花子, 山田次郎, 佐藤洋子, 他：難治性活動性肝炎の柴胡剤と桂枝茯苓丸の併用療法。日東医誌 21：101-109, 1970

・英文文献の場合

例) Hanakawa S: Increase of urinary 6-keto-prostaglandin level by preoperative administration of goreisan or tokishakuyakusan to the patients with gallbladder stones or polyps. J Med Pharm Soc Wakan-Yaku 9：32-39, 1992

【書籍】

著者名：標題、書名（版数）、発行所、発行地、始頁-終頁、発行年 ※初版以外は版数を明記

・和文文献の場合

例1) 樹木次郎, 森山三郎：漢方診療辞典（第2版）、北山堂、東京、60-65, 1975

例2) 田畑隆一郎編著：柴胡桂枝乾姜湯。漢方ルネサンス、源草社、東京、313, 2002

・英文文献の場合

例) Hanaeda M, Koeda N, Oeda O, et al.: Scientific reevaluation of Kampo prescriptions using modern technology. In Recent Advances in the Pharmacology of Kampo (Japanese Herbal) Medicines. 4th ed, E. Medica Ltd., Tokyo, 213-218, 1988

・古典文献の場合

例1) 浅田宗伯：香砂六君子湯。勿誤薬室方函口訣巻上 近世漢方医学書集成 96, 名著出版、東京、101, 1982

例2) 張仲景：明趙開美本傷寒論卷第三。燎原書店、東京、134-135, 1988

例3) 龔廷賢：香砂六君子湯。万病回春卷之四補益門。和刻漢籍医書集成第11輯、小曾戸洋、真柳誠編、エンタプライズ、東京、128, 1991

例4) 薛己：内科摘要。四庫医学叢書薛氏医案、上海古籍出版社、上海、763-825, 1991

例5) 黄帝内経素問（顧從徳本）。四気調神大論篇第二。重広補注黄帝内経素問第一。四庫善本叢書所収、日本経絡学会、東京、8-10, 1992

例6) 李東垣：飲食勞倦論。内外傷弁惑論卷之一 和刻漢籍医書集成第6輯、小曾戸洋、真柳誠、エンタプライズ、東京、43-44, 1989

・原本の頁記載がない場合

例) 李東垣。飲食勞倦論。内外傷弁惑論卷之一。（電子版の出版社および発売年）

【電子ジャーナル論文】

電子ジャーナルの論文（著者名、論文名、誌名、出版年、巻、号、頁-頁、（媒体表示）、入手先、（入手日付）。

・和文文献の場合

例) 松原茂樹, 加藤芳秀, 江川誠二。英文作成支援ツールとしての用例文検索システム ESCORT。情報管理。2008, 51, 4, 251-259. doi: 10.1241/johokanri.51.251, <http://joi.jlc.jst.go.jp/JST.JSTAGE/johokanri/51.251>, (参照2008-08-15)。

・英文文献の場合

例) Mabon SA, Misteli T. Differential recruitment of pre-mRNA splicing factors to alternatively spliced transcripts in vivo. PLoS Biol. 2005, 3, 11, e374. doi : 10.1371/journal.pbio.0030374, <http://biology.plosjournals.org/perlserv/?request=getdocument&doi=10.1371/journal.pbio.0030374>, (cited 2008-03-09).

- 16) 著者校正は、原則として初校正（査読済み原稿）のみとし、再校正以後は編集部にご一任ください。
- 17) 英文抄録（Abstract）は、医学英語学の先生に英文チェックを依頼しています。文法的には問題がないと思いますが、もし内容的に疑義が生じた場合には、著者校正の時にご訂正ください。
- 18) 別刷は50部まで無料です。有料別刷りは、50部単位で編集部までお申し込みください。

V. 原稿送付先、問合せ先

原稿送付、問合せは下記編集部までお送りください。

株式会社ライフメディコム 内

「痛みと漢方」編集部

〒111-0054 東京都台東区鳥越 2-13-8

Tel. 03-5809-1961 Fax. 03-5820-1898

E-mail: pain-kampo@lifemedicom.co.jp